

# 安全行動における職業的自尊心の役割

目計画行動理論を用いた安全行動モデル作成の試み

○大谷 華・芳賀 繁  
(立教大学現代心理学部)

キーワード: 安全行動, 職業的自尊心, 計画行動理論

The role of occupational pride on safety actions : Constructing a model of safety actions with the theory of planned behavior

Hana OYA, Shigeru HAGA

(Rikkyo University)

Key words: safety actions, Occupational pride, The theory of planned behavior

## 目的

産業現場において, 作業者の努力は常に「効率・品質・スピード」と「安全第一・規則遵守」の異なる2方向に向かって注がれている。その中で, 安全行動への動機づけはいかに維持され, 自発的な安全行動が生み出されるのだろうか。

本研究では, 作業者の行動に影響する心理的要因のひとつである職業的自尊心を起点とし, 「計画行動理論」を援用した安全行動の要因モデルを検討した (図1)。

## 方法

2010年11月に, 製造業2社の現場作業者と直属上長に対して質問紙調査を実施した。有効回答数583名(有効回答率100%; 作業員426名, 上長149名, 不明8名), 平均年齢39.5歳(SD=13.0, 年齢幅18-62歳), 女性は作業員12名であった。質問項目は, 上記モデルの各要因にかかわる項目群(安全行動を除く), および所属, 職位, 性別, 年齢であった。

## 結果

まず, 項目群ごとに因子分析を行い(主因子法, プロマックス回転), 因子負荷量0.4以上の項目を選定し, 要因ごとの尺度を作成した( $\alpha = .52 \sim .88$ )。次に, 各尺度で因子負荷の高い3項目を使用して, 構造方程式モデリングによりモデルを検討した(図2)。適合度は $rmsea = .067$ ,  $cfi = .823$ であり, 本モデルの採用は妥当であると判断した。

おもに以下の3つの知見が得られた。  
(1) 職業的自尊心は, 安全態度を通じて, あるいは業務意欲から安全態度を通じて, 安全行動意図に肯定的影響を与えていた。  
(2) 業務意欲に「スピード重視」と「効率品質重視」の2因子が, また安全態度に「システム型態度」と「個人行動型態度」の2因子が見出された。スピード志向の業務意欲はシステム重視型安全態度と結びつき, 効率品質志向の業務意欲は個人が安全行動をとることに積極的な安全態度と結びついていた。スピード志向の業務

意欲の高さが個人の安全行動を重視する態度を低める影響が示唆された。

(3) 安全行動の知覚された制御可能性に「主体的行動」と「環境的阻害」の2因子が見いだされ, 安全行動意図の形成には「主体的行動による行動制御可能性の知覚」が最も影響力を持っていた。一方, 社内で安全行動が評価されるという信念に基づく主観的規範の影響は限定的だった。

## 考察

業務意欲と安全態度が一意に相反するものではないことが示唆された。安全態度2因子のうち, システム重視型態度は従来の「適切な設備・施設・安全規則による安全対策」を示していると考えられ, これは基本中の基本である。しかし, それだけでは安全行動につながらず, 個人の行動に焦点をあてた安全態度が安全行動意図を導くことが示された。今後は, こうした態度と現場での対処力, レジリエンスとの関連の検討が考えられる。

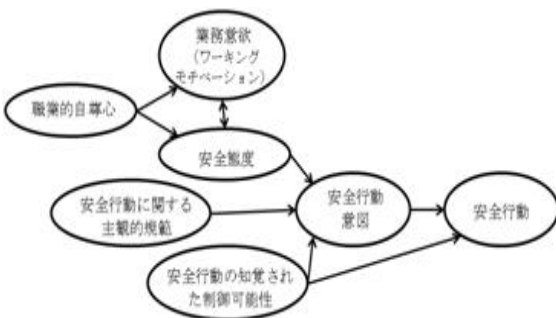


図1 安全行動の要因モデル

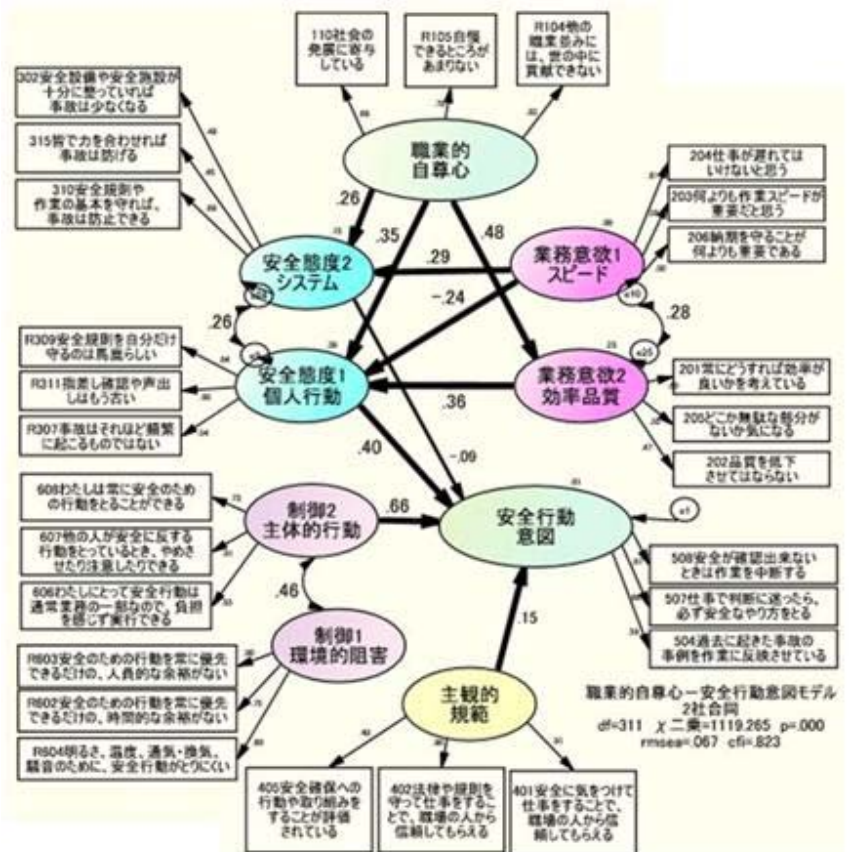


図2 職業的自尊心 - 安全行動意図モデル